OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	附錄 故永田仁助先生述『偶感隨筆』
Author(s)	
Citation	懐徳. 1927, 6, p. 1-31
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/88780
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

偶感隨筆

刊行に就きて

本篇は故永田仁助先生が、親ら口述し、某氏をして筆記せしめ、深く篋底に秘せられたる未定稿にして、原本は片假字交り、半紙十行罫紙、表紙共合せて廿九枚あり、内、目次は唯標目のみありて空白三枚を存せり、蓋し先生尚健在にして完結したらむには、世に資益すること多大なりしならんに、中道にして歿せられ、完成を見るに至らざりしは遺憾と云ふへし。

本文原と句讀點、濁點共に無し、這般創めて鉛印に附するに當り、一に舊に從ひ毫も私意を加へず、唯片假字を平假字に改めたると、記載項文の順序によりて新に目次を附せるは、印刷の都合と婆心とに過ぎざるのみ。

昭和二年十月

懐徳堂堂友會

序文

予の譾劣を以て幸に先輩の捨つる所と爲らす夙に其の提撕を辱くし叨に騏尾に附して毎に社團の樞機に參與するこゝを得たるは寔に予の望外の光榮とし衷心感謝を禁せさる所也而して其の事に當るや或は難易を念とし或は成敗を慮るに遑あらす敢て辭せすして以て卒然係爭の局に投し因て進退其の兩途に窮するを效し殆ど收拾の手段に盡くるに會し豁然として應に出つへきの端を發見したる、苦辛慘憺纔かに責任を塞くを得たるか如き之を實地に體驗して大に學ふ所あり今や耳順を過き古稀に垂むとす回顧幾春秋知遇の報恩仍未た央なる能

はすして先輩の既に逝て復歸らさるあり感慨無量我に此の隨筆ある所以なり

目次

責任觀念の緊張を要する事　一
訪問の要訣　二
人に自分の誤解を與へぬ樣注意すへき事　三
我五恩あり念々報謝せさるへからす　五
不平を鳴すに調節緩急を計るへき事　六
蔭口は絶對に愼むへき事　八
富を作るは宜く大道濶歩的なるへき事　九
金儲の成功と同時に相當の善行を爲すは人生の必要條件なり　一二
怒は悔を遺す寧其の始を愼むに如かさるなり　一三

得意の時必生の驕傲を戒む　一四
推薦者としての心理的一黒點　一六
恩を受けては瘕疵苟も忘るへからす　一八
責任を嫁するは僻事なり　二〇
人爲の目的は宜く建設的なるへし破壊的なるへからす　二二
物識り顔なるを戒む　二五
人は己が爲のみならす他人の爲にも亦計る所なくはあらす　二六
知り合の間柄には常に連絡を持續し置く必要あり　二八
他の功は助成すへし嫉むへからす　三〇

責任觀念の緊張を要する事

不肖自ら揣らす屢々紛糾の渦圏に殁頭し其の仲際人として問題の解決に關與することあるは敢て事を好めるに非す一片社會報恩の誼に維れ由る既にして相方の主張を聞き其の和解の餘地あるを看取するや即說くに和解の要を以てし粗ほ解決點に就き仲際人の懷抱せる內容を諷せるに對し當事者も亦幸に仲際人の立場を諒こせられ答ふるに『何トカ致シマセウ』等較々緩和的語句を以てせらる乃ち仲際人は此の曙光を握り得て一躍愈々解決の段取に達したるに及ひ一方若は双方の當事者か案外にも頑然其の主張を固持して讓ることを爲さす一層問題の事態をして紛糾せしめ容易に解く能はさらしむるに至

ること往々に有之斯る場合に於ける仲際人の行動たる或は輕忽の批難を免かれす又當事者の所謂緩和的語句は特に仲際人に對する單なる挨拶の辭令に過ぎさりしと解するの外なしとは云へ畢竟社交情調の惡化に因る一現象にして責任觀念の弛緩に由來せすむはあらす責任觀念の弛緩は社會的風紀の秩序を紊るものとして斷して排斥せさるを得さるもの也

訪問の要訣

人は公人たると私人たるとに拘らす各自其の地位相應の時務を帶有すること勿論なり故に要件を以て人を訪問したる場合は殊に熟慮なる間柄にも恭謙の禮儀を守り可成主人の邪魔

にならぬ樣心懸くるこゝは申すに不及克く主人の氣合にも勘考し今一段と云ふ即ち八分目の頃合を計りて辭去するこゝ肝要なり徒らに長談空論に耽り甚しきは他の來客あるを知りながら尙引下かることを知らさる者の如きは遂に主人をして顰蹙せしめ隨て爾後の會談を忌避せしめ或は爲に當面の要件に關する效果にも惡影響を及ほすなしこせす簡潔に要談を了りて辭去するの用意は他人就中多忙なる社交家訪問の要訣なり

人に自分の誤解を與へぬ樣注意すへき事

一旦他人の心理に我を誤解すへき印象を與へたるものは容易に難拔を當情とす難拔の解誤は聽て其の信用を蝕滅し智識

伎倆の價値を減却若は滅却し容易に摩し得へき筈の地位をも贏ち得すして終に空く非境に停頓するを免かれす世相の漸く惡化し道義的觀念地を拂ひて物質的利勢的にのみ偏倚し自ら省みて日に新にするの信念を心銘して發憤實行に砥勵する底の眞人の幾希なる斯て人は槩して自ら奉することを極めて簡なる反面に於て他を責むることを尙頗る嚴なるあり即他人の不德不義とさへ云へは飽迄も之を追及暴露し論難攻擊毫も假借する所なからむとす況や善行の世に稱せらるゝの遲鈍なる惡事の千里なるに反比例せることを古今の通觀なるをや故に不謹愼の談論に涉り輕躁の行動に及びて心にも無き誤解を人に與ふることの如きは不斷の注意を以て絶對に之を回避するを要す

我五恩あり念々報謝せさるへからす

身體髪膚は之を父母に受け
陛下の忠良なる臣民こして大和民族たるの名譽は之を君國に
稟く聖賢の書に親み以て懐を古道に輸し愚文を屬して以て鬱
を現代に遣るこさを得るは師の薫陶に賴れり研鑽啓沃の益は
朋友就中先輩知己の錫なり暗礁の潮流を激し暴風の波瀾を捲
くある滄海に航處して幸に幾多の教訓こ體驗こを感受し得た
るは時世の惠なり人各々多少の厚薄を免かれさらむも誰か能
く此の五恩に浴せすこ謂ふを得る者ぞ既に此の五恩あり常に
心を其の報謝に存せすして可ならむや謝恩の方他なし唯當に
恩を辱かしめさるへし自重身心の健を保ち進退公道に原きて

苟も悖らす擧措節度を制して機宜を謬らすは則庶くは恩を辱かしめさるを得るに幾からむ乎我曾て之を唱して其の行の毎に未た及はさるを慙つ君子は先其の言を行ふで而後之に從ふこと難矣哉

不平を鳴すに調節緩急を計るへき事

誰か世に處して不平絶無なりと謂ふ感想の動機は事物の實體を直觀し得たる時平を得すと爲すものあるに發す天下萬有の著述概しで時代の實相に憤慨せる不平の横溢にあらさるはなし詩書百家の編皆是なり文を以て能く鳴るもの韓愈が送孟東野序を宗とせむ而も不平を鳴すことは苟も口にすることを

慎み克く心に藏して一轉勇猛精進し自己修養の向上に資すへし是不平を鳴すものゝ最たる利用なり若夫之を鳴すものゝ惡用に至ては之あるか爲に先輩の知遇にも背き由て憎惡を沽ひ信用を失ひ延て社會に立つ所以の前途を壅寒(ママ)し動もすれは既に贏ち得たる地位をも危くせむこす果して然らは用うへきの智能技藝ありと雖何の地にか施すを得む悚して愼ますむはあるへからす故に曰く不平を鳴すの手段程度に關しては細心の思慮を加へ調節緩急を計るへしと其の用うるの必要あるに會しても之を鳴すや克く節度の畛域を恪守し且極めて恬淡なるへく執着執拗の弊に陷るへからさるなり

蔭口は絶對に愼むへき事

世には話上手なるものあり圓轉滑脫連綿として殆ど盡くる所を知らさるか如し其の所言果して眞に皆白璧を列ぬるに足らは敢て微瑕の弊に陷ることなしこせむも古諺既に言の多きは品寡しの誡あり殊に人の蔭口を云ふ僻に至ては絶對に之を愼むへし蔭口は多岐の弊害を伴ふ其の信友間の交情を疎隔するの一旦に止まれる如きは未たし其の事業の成功を阻害するか如きに至ては弊の極めて辛酷なるものにして寧ろ慘毒を流すものなり蔭口を云ふの事實にして道義上眞に默止し難しとするものならは之を他に移すの前に於て當に其の本人に向つて面責するの義に出つへし面責の必要もなき些事ならは譬へ

他人の口より聞けりとするも復た之を說かさるの勝れるに如かす況むや蔭口を聞くは心ある人の決して愉快と爲す所にあらさるを以て却て之を云ふ者の自毀自傷を意味するをや

富を作るは宜く大道濶歩的なるへき事

生存競爭の激甚なる人々富を作るに焦り其の手段方法を擇はさるの勢を助長するものあり依て刑辟に觸れ累を多方面に及ほし社會的風紀を壞汙し經濟を攪亂するに至る悚然として怖るへき現象なり熟々成敗の迹を鑑みる必すしも遠く古に遡りて之を索むるを要せす近く浮沈の事實に徵すへし夫れ逆て入るものは又逆て出つるの原理なることは夙に先哲の釋明せ

る所語に曰富與貴是人之所欲也不以其道得之不處也と法に制裁の備ばるあるは此に論せす設使法の問ふ所に在らす又人の噂は七十五日富の眞價を知らさる迂愚的識者輩の指彈の如き毫も齒牙に係くるに足らす等傲然自ら居る者と雖其之を得るに不義を以てせるか其の人にして幾分の良心を有する以上曷そ瘖痱の安靜を得む況や不義に由る富の價値は物と心理との化合即心理化學的數理に據て計算せらるゝ場合正當に得たる富の同量に對し著しく低下し就中眞人の評價を以てすれは殆と糞土にも匹すへきをや而も其の成るや一旦の浮雲に酷似し其の敗るゝや世の同情をも維くに足らす反之順に居て正しきに從ひ敢て貪らす彊めて息ます漸を以て積むに成功したる富の基礎は極て鞏固にして其の事蹟は處世の模範として永に存

すへし得失分明眞乎富を作るの要素は大道濶歩的なるに在り

金儲の成功と同時に相當の善行を爲すは人生の必要條件なり

金儲の成功はより多く人をして慳ならしめ極度に金の用途を約して吝ならしむるの弊あり蓋し成功に至るの途中幾多の障害に遭遇し毎に非常の努力を用ゐて之を排除し以て彼岸に達するを得たる其の心理に於て人一倍身に沁みて金の貴きを感するか故にも由來すへしこは云へ飜て人の成功は孤立の能く齎らす所ならすして暗に社會の保護冥助に負ふ所多大なるを知らすむはあらす輓近泰西に於ける法政兩科學の大家が富

豪の一般的上流の地歩を占めたる隨て社會的保護利益を受くへき機會分量も普通人に比較して幾層階なるこ收益の多寡は社會より受くる恩惠の程度に比例すこの論據に依り富豪家は社會に對し富豪稅を負擔するの義務ありこ做し稅法改正の必要を主唱するに至れりこ云ふ此の立法的機運は早晩東漸を期すへきものなり縱し立法的潮流は姑く之を度外に措くこするも成功こ同時に相當の善行に散して所謂功德の報恩に資するここは人生の必要條件ならましこ認む

怒は悔を遺す寧其の始を愼むに如かざるなり

怒は情の激せるなり情激するこき常軌を逸す其の平靜に返

りたるとき悔を感する勢の當然にして其の狀の最見憎きは怒を移すの相に在り特り佛家の五戒に其の目を掲くるのみならす先哲の數々訓戒する所なり而も訓戒に服して實行に怯ならむことを恐る夫れ發怒の因たる多の場合對者が自己に向て敬愛の禮儀を缺き若は自己を誤解して寃を强ゐ或は不當の無禮を加へたりと認むる感情に原くと雖對者が熟慮の上敢て其の行動に出てしか否か或は他に原因の伏するものあるか否か先思を潛めて其の由て來る所以のものを考一考せす單に激せるか儘に對者を責むるに急なる我に於ても亦一旦の感情を制する能はすして自己を忘れたる責の負ふへきあり悔を後に遺すは事狀の然るなり悔は拭ふ能はさるの慙愧を伴ふ寧其の始を愼みて後に悔なからむには如かす克く激情を自制し以て對者

を寛容するの常習を得は對者反省の感應なからじこ爲さす之を怒らむより寧之を憐めこは有德の知言なり

得意の時必生の驕傲を戒む

驕傲慢心は如何なる人物、如何なる境遇、如何なる事情、如何なる時機を以てするに關せす何れも皆同軌の結果を齎らし其の必然の敗端を作すへく訓古の徵據あるここは蓋し徧く人の知れる所なるも扨て實際の行爲に就き世間の通弊を成すに觀すれは轉々痛歎を禁せさるなり就中人の比較的得意こ爲す時代に於て動もすれは輒ち常識の有せる反省の力をも麻痺せしめ以て增長驕慢の行動を敢てせしめ因て積年の勞苦に據

る成功の堅壘に破綻の隙を生せしめ甚しきは一敗地に塗れて再起する能はさるに至り千悔萬恨復及はさるの窮境に沈淪する者實例の乏しからさるを感す彼其の增長驕慢の擧動たる傍若無人の態にして是見よ顏なる全然自己あるを知て天地の無邊なるを知らす當時既に有識の顰蹙を招き其の終に必至究竟の地に陷りては一世の嘲笑を買ふの皮肉を自ら演しつゝありたるこゝを覺らさるか似し其の愚や及ふへからす其の慘や閔むへし所謂因果應報の驗ある釋家の說を竢たさるなり亢龍有悔況や凡倫をや

推薦者としての心理的一黒點

能く人を知ることを得て適材を適所に置くことの難きは姑く論せす例之は就職難に罹れるを推薦したるに幸に其の人の努力空しからす累年榮進して爰に相應の地位を占むるに至りたるあり彼必しも舊恩を忘れたるにはあらさるも地位相當の見地より事に當りて往々推薦者と其の意見を異にするあるを見るや深く其の心事の實相を究むるに至らす即ち自己を敬することと昔日に似す之を迎ふることと薄しと做し目するに忘恩者を以てし隨て之を毀貶せむとする者なきにあらす之に臨むに仍昔日の阿蒙を以てし強て自己の意を承けしめむとするか如きは被推薦者の腦裏に存せしむへき感恩の念を削き隨て之

を毀貶せむとするの所爲は推薦者自ら推薦の德を傷くるものなり就職難の日に於ける被推薦者は時代の不幸運兒なり一旦其の職を得るに至り爲す所あるか如く累年榮進するあるは寧其の人の曾て有せる識量の發揮に由るとすへし夫れ果して此に適材の利用ありとする乎推薦者の眼識を高しとして世人の敬服を贏ち得るに足るへしとすれは推薦者は寧其の榮進に於ける處を分ちて隱然援助を與へ益其の力を發揮せしむへきなり若し夫れ本人にして果して舊恩を忘れ苟も驕慢の擧動ありとするか宜く面責して之を悛めしむるの手段に出つへし是彼をして益伸ふる所あらしむるのみならす推薦者として寛柔の德を成し且推薦の責任に終始する所以の道なり

恩を受けては寤寐苟も忘るへからす

先輩の推薦を被けて既に相當の地歩を占め據て榮進の機會を得るに至るや忽ち昔日を忘れ自ら社會相當の待遇を受くへき資格あるこゝを許し推薦者たる先輩に對しても傲然其の下風に立つこゝを厭ひ甚しきは舊恩に報ゆるに新仇を以てする底の行爲に出つる者往々有之を見る其の醜や眞に憎むへし深く戒めすむはあらさるなり被推薦者にして單に同情を寄與するに足りて其の材の眞に擧くるに足らさる乎即不當の材を供したるに因りて第三者兼ては社會に迷惑を及ほすものこなるへけれは之か推薦を爲すへき先輩も絶無の理なり先輩にして之を推薦せるは擧くるに足るの材なりと識認する所あるに由

れは其の人の今日ある人を知るの明ありと謂ふへし既にして立脚を得て相當の地位を占むるに至れる推薦の明之か始を作すものなれは榮進の高きに正比例して合さに其の恩の高きを感謝すへき筈なり現代普通の智育を受け性來尋常の腦力を有する者ならは專門技術除外の局に當りて相應の能力を發揮し得へしと爲す前提を以て若與へられたる地位相應の事務を燮理し得すと云ふ者あらは吾は之を無能力者と云はむと欲す此の故に漸次榮進して世間相應の地位を贏ち得たり迚其の今日あらしめたる推薦の恩こそ高けれ自ら伐るには足らさるなり抑損自ら居りて克く其の始めを忘れす勤勉局に當りて能く其の終りを愼まは則推薦を空ふせさる者と云ふことを得む舊恩に背き之に報ゆるに新仇を以てするか如きは吾之を口にする

だも快しとゝ爲さす受けし恩を忘れて先輩にも傲然たる態度に出つるか如きは施しゝ恩に執着して云爲し以て或は後進を掣肘せむとするの陋なるよりも幾層陋なり

責任を嫁するは僻事なり

社會的組織の秩序は忠醇重厚にして恭謙禮讓ある國民的思想に維持せらる所謂現代的文化として推奬せらるゝ時代思潮は輕佻雜駁にして詭激粗野なり服從を蔑如して漫に自由を高唱し義務を度外に置きて主として權利を力說せる曷ぞ責任觀念を稀薄ならしめさるを得むや夫れ責任觀念とは當務者が自己の責任を重しとし之を盡さすは苟も止ますとする堅實的意

思の謂ならすむはあらす企畫者が其の企畫したる事件に關し審かに利害關係を比較研究すへきは勿論其の結果之を起すの利あるを認めたるときは一切の障害を排して之を現實に行施すへく又之を起すの害あることを知りたらは非を遂くるの愚に出てす斷然之を中廢すへし即施否孰れか決定的處理を爲すへしとするものなり漫然として之を中止し施否孰れとも決定的處理を爲すに至らすして有邪無邪に喪むるか如きは責任觀念を解する者と認むるを得す此の意味に於て一旦の障害に遭遇して乍ち初思を飜へし或は左迄の障害に遭はすとも單に事を遂くるの自己に非なるを豫知して容易に挫折し以て自己の主張したるものに屬せさるを粧ひ或は現在四圍の事情に於て之を强行するの利は他日再起の地步を占むるに害ありと爲し

由て其の主張の責任を同僚に嫁せむとし若は其の理由を他故に藉り事の始末を曖昧に付して職責の一切を抛棄し因て以て其の責を後繼者に讓らむとする者の如き等しく責任を他に嫁する者とし斷して指彈せむと欲するものなり夫れ如斯上下交々回避して責任の重すへき所以を知らす明かに非行を遂げて尙且其の原因に附帶する責任を免かれむとし之を他に嫁せむとする者流の滔々たるは時弊の浸潤とは云へ浩歎に堪へすとする所なり

人爲の目的は宜く建設的なるへし
破壊的なるへからす

建設は進歩なり破壊は退歩なり太陽の熱度の漸く減退しつゝあることを顯證し地球の壽命を五百萬歳と極限するあるに依れは宇宙の萬有は年々退歩するものゝ似しと雖又人類世界に於ける優勝劣敗の歴史は古往今來幾變遷殆と繰返すものに過きさるか如しと雖然れとも其の大系に於て人文の進化を認めさるを得す就中我大和民族たる無比の國體を以て陛下の大稜威に依り殊に現世紀に於て顯著なる光華を四表に布きたる以て益國力の充實を期圖せすむはあらす國力の充實

は内容の鞏固に在り内容の鞏固は宜く建設的なるへく破壊的行爲の齎らす所にあらさるなり況むや吾生の行に休せる一代を通して辛ふして半世紀なるに過きす吾人此の短命を抱きて世に處す須く其の活動力の消費をして經濟的ならしむへし必然の歸結に於て不經濟を伴ふ破壊的行爲は吾人生存の意義に正反對なるをや自然の屢々災害を下して人類の建設を破壊するや即ち觀て以て人類の無智に鞭撻して反省を促し更に研鑽改善を加ふへきことを暗示する天譴なりとするは可なり以て自然は破壊的なりとするは吾斷して不與焉若自然にして破壊的なるの眞理ならは吾人は人類の敵として發憤自然の征服を鼓吹せすむはあらす若夫人間事業界に於ける行動の偶々以て破壊的なるは偏執なり猜疑なり嫉妬なり吾の卑吝として唾棄

せむと欲する所のものなり

物識り顔なるを戒む

世間物識り顔なる人あり而も其の數に於て甚希なりと爲さす是其の知らさるを以て恥なりと爲すものに似たり其の心の陋なるや寧卑むへし不知爲不知是知也とは夫子の由に誨へし所なり然らは則知らさるを知らすと爲して克く之を識者に聞く何の恥か之れあらむ物識り顔なる人の曾て他の問へるに對し知らさりしをも知れりと爲して更に聞糾され終に赤恥を暴らしたるあり不知爲不知の恥に幾層倍なるを知らす多く聞て

疑はしきを闕き愼みて其の餘を言はゝ則ち尤め寡しこは亦是夫子の訓にして古今の箴なり但に之を守持するの難得こ爲す耳知れるをも知らす顔にするこゝを得る人あらは吾之を一人前以上の人こして尊敬し冀くは其の執鞭の奴こ爲らむ

人は已が爲のみならす他人の爲にも亦計る所なくはあらす

爰に住居あれは比隣あり聚落の據りて社會を成すある以上、相賴り相保つの義あるは自然の道なり山間點々の寒村、酒屋に三里豆腐屋に貳里の孤軒に於ける尙却て遠近呼應し相助く

る人情の醇撲あり共同生存上當に然るへき所也世に所謂獨立とは睽孤の謂にあらさるへし共同團體に於ける一人として義務を盡し得へく因て又權利を有し得へきを謂ふの正義なるを認む各自己が業務に勤しみて彊めて息む時なからむも常に中和に居り自他利害の調節を計り機宜相讓りて以て衝突を避くるにあらすは紛諍の止む間なく社會の秩序は紊れなむ他の獨立を妨けす、他人に迷惑を及ほさす、公安公益を傷けぬ範圍に於て人後に墮ちされと互に相勵むこそ人の人たる道なれ囚はれたる執我を以て立ち得るとするは謬見なり況して有爲轉變曲折の窮りなき世の、人間には不時の災禍もあり敢て求めさる他の援助に活くと云ふ塲合亦絶無と爲し難けれは自己の利益とのみ計りて他人の爲にとは毫も顧みぬと云ふことの僻

事なるも明けし情けは人の爲ならじこは味ふへき古諺なりその野心に出つるこそ陋こすへけれ尚且行施せさるには勝れり吾は其の眞心に出てゝ他の爲に計るものゝ聽て自己の爲にしたりしか如き相を以て發露するあるの自然の理なりこする卓見に服す

知り合の間柄には常に連絡を持續し置く必要あり

時の要務こてあるこことなくは知り合の間柄に於て音信を絶つことあるも已むを得ずなど自ら許して訪問通信を怠り勝ちに措けるは吾等も亦數々免かれぬ過失にして心大に恥かしこ

爲す所なるか疎遠必しも友情を全然冷却すこは爲さざれ慥かに温情の幾分を減殺するもの也偶々何か事の發生し來りて直接間接に其の應援なご求むる必要あるに方り不斷の連絡ありたらばご痛切に遺憾を感するこご往々あり予の此の體驗に依れは平素事々敷要務ありごにはあらすごも疏遠に流れぬほご〳〵力めて時折の訪問通信をつぎ〳〵にし連絡を絶たぬ樣の心懸肝要なりごす是必ごして持續的に相互の交情を温め得るは勿論特に一朝問題の殺到し來るありて之が解決を與ふるに會し此の温情の結合力は微妙の效果を齎し得へしごする點に於て處世の秘訣ごも謂ふへきなむ

他の功は助成すへし嫉むへからす

他の功を嫉みて之を非難毀傷し因て排擠せむとする者あり僚友の功を傷けて以て自己の地に培はむとする乎之を稱げて助けて成さしむるの優なるに如かじ徳操の如何はしきを以てして處世の術には却て利功なる多くは足恭阿諛の徒の偏狹なるに出づ機關の首腦の愛憎に倚りて下僚の實績を顚倒にせる世或は希ならすとは云へ而も發いて直とする之を暴こいふとは直情徑行の愛すへきすら尚夫子の以て禮の節度に適はすとせられ痛く戒めらるゝ所反省の以て己に克ち禮に復へるの根抵たるその何れの時何れの地たるに拘らす徳性の涵養上必要

なるへし自ら其の履むへきを謬り他の功を墮して苟も之を抑へむとするか如きは無恥の極こしてその人の爲にも排斥せねばならぬ斯る不善の結局の露顯を怖れさるは四知を盲にせむとする夢想なり深く戒めて愼ますは自己立脚の地をも失ふに至りなむ